

第1回史跡広島城跡保存活用会議 要旨

1 会議名称

史跡広島城跡保存活用会議

2 開催日時

令和4年2月21日(月) 14:00～16:00

3 開催場所

大手町平和ビル5階 ボランティア研修室

4 出席委員等

(1) 委員(敬称略)

三浦正幸(座長)、棚橋久美子(副座長)、三宅正浩、中井均、西形達明、鈴木康之、
今川朱美、中越信和、戸田常一

(2) オブザーバー

浅野啓介、森本直人、高野和彦

(3) 事務局

広島市市民局 文化スポーツ部長、文化財担当課長、広島城活性化担当課長
株式会社パスコ

5 議題(公開)

(1) 座長・副座長の選出について

(2) 会議の概要について

(3) 広島城の魅力向上に向けた取組について

(4) 保存活用計画の構成について

6 傍聴人の人数

0人(報道関係者を除く。)

7 会議資料

第1回 史跡広島城跡保存活用会議 配席図

史跡広島城跡保存活用会議 委員名簿

資料1 史跡広島城跡保存活用会議開催要綱

資料2 史跡広島城跡保存活用会議について

資料3 広島城の魅力向上に向けた取組について

資料4 史跡広島城跡保存活用計画目次案

参考資料 史跡等保存活用計画の策定について

8 発言要旨

(1) 座長・副座長の選出について

- ・資料1要綱の第4条に基づき、座長・副座長の各一人を委員の互選により選出。
- ・座長は中越委員からの推薦により三浦委員を、副座長は中井委員からの推薦により棚橋委員を選出した。

(2) 会議の概要について

—事務局から資料2及び参考資料により説明—

(鈴木委員)

- ・広島城の文化財としての価値・活用を考えていく時は、資料記載範囲の外側の城下町というところまでどう扱っていくかも今後の問題になるかと思う。例えば地域計画などで取扱いを決める必要も出てくると思うが、より広域の保存・活用について、市の見通しを伺いたい。

(事務局)

- ・今回の計画では、史跡の指定範囲にとどまらず、三の丸やその周辺地域の在り方についてもまとめていく。中心は史跡範囲と隣接範囲だが、元々の広島城の範囲で考えると、現在の元安川から八丁堀、南は紙屋町までになる。都心部は今後の再開発の過程で適切な調査を行いながら、市の文化財保護行政を進めていく必要があると考える。

(鈴木委員)

- ・現在市街地では多くの再開発計画が進み、その中で文化財を保存し、魅力的な発信をしているかが重要になる。十分配慮してほしい。また、文化庁調査官、県教委主任からアドバイスをいただきたい。

(三浦座長)

- ・指定地外を含めるかについて、他の史跡についても保存活用計画で指定地外に触れているところがあり、その辺を調査官に説明いただきたい。

(浅野調査官)

- ・指定地に関わる範囲は計画の範囲に入れてほしい。特に広島城の範囲では、前の保存管理計画でも三の丸の追加指定について触れており、当然入れていただきたい。

(3) 広島城の魅力向上に向けた取組について

—事務局から資料3により説明—

(中井委員)

- ・三の丸歴史館について、史跡の追加指定を考えた時にどういう位置付けになるのか。史跡外という話は伺っているが、すぐ近くに本丸、二の丸が見えるところで、単に歴

史館という平面的なことだけではなくて、景観的な問題もあると思うが、そのあたりはどうお考えか。

(事務局)

- ・景観面については、二の丸復元建物や本丸に十分配慮したものにしなくてはならないと考えており、高さについては2階建てを予定している。外観等はまだ検討中ではあるが、周囲の景観に配慮したものにしたいと考えている。

(中井委員)

- ・追加指定等々については今のところは考えていないということか。

(事務局)

- ・三の丸の追加指定については、現行の保存管理計画で検討することとされている。三の丸の整備にあたり、昨年度当該範囲とバス駐車場の新設予定地について試掘調査を実施した。
- ・現行の駐車場は戦後の攪乱が見られ、状態は良くない。遺構残存状況を踏まえ、仮に指定が難しい場合でも記録保存の手段を取りたいと考える。中井先生に確認いただいたバス駐車場の新設予定地の試掘調査範囲は、比較的遺構残存状況は良く、整備にあたり盛土を行うなど、遺構面を考慮した施工を考え、地下遺構の保護を進めたい。今後の保存活用計画で先生方の意見を聞きながら取扱いについて考えたい。

(三浦座長)

- ・三の丸追加の件は、三の丸の北東の端、裁判所の北側は石垣がほぼ残っているが指定地外である。また西側の外郭、大手と呼ばれる範囲では川沿いに櫓台が上部が2基露出している。少なくともこの3か所は明確に遺構が残っており、今後の追加指定に関し考慮する必要がある、この計画でしっかりと触れていただきたい。

(中井委員)

- ・遺構が見えるところは追加指定し、遺構が残っていないところについては、歴史館等々を整備するというような形で、報告書で明文化するのが良いと思う。

(中越委員)

- ・三の丸歴史館について、現在の天守閣にある資料を移動させるということか。資料は今後も増えるもので、現状の容量のみで考えるのと将来的に困るのではと思うが。また現状については分からないが、天守閣の中に自然史系の資料があったと記憶しているが、その現状について伺いたい。

(事務局)

- ・広島城三の丸歴史館は、現天守閣よりも大きい規模を考えており、展示・収蔵環境についても改善・拡充を図っていく。現天守閣の展示・収蔵品は全て移設する予定である。
- ・なお、現天守閣は、平成元年のリニューアルの際に武家文化を中心とした博物館施設となっており、現在、自然史系の資料は基本的には無い。

(三浦座長)

- ・かつての展示品はどこにあるか。

(高野館長)

- ・自然史系資料は、リニューアルに際して持ち主に返却している。

(鈴木委員)

- ・広島城天守閣で管理が難しいものは郷土資料館で保管されていると伺っているが、新設の展示収蔵施設では収蔵機能を含め、現天守閣には無い機能導入と、点在している資料についても収蔵する計画であるという理解で良いか。

(事務局)

- ・一般収蔵庫及び特別収蔵庫を整備する予定としており、広島城が所有しているものは、現在分散しているものも含め、新しい施設に移す予定である。

(棚橋副座長)

- ・2項(3)について、歴史館整備において広島城全体を結び付けた一体的な展示ストーリーの構築が必要で、役割分担をしつつ、それぞれの特性を生かした展示の展開をするとあるが、これは重要で、リピーターを集める期待も感じられるが、その実現に(4)のお城全体の展示企画等の専門的な学芸業務について別途事業者選定をすることある。これらの展示を行う上でストーリーをまとめる司令塔を担う立場にこの事業者を当てはめていると思うが、果たしてこれができる事業者がいるのか。また、歴史館の学芸員との関係性についてどのようにお考えか。

(事務局)

- ・司令塔的存在という御指摘だが、まず広島市として、展示ストーリー、それぞれのエリアの役割・機能について整理する必要があると考えている。これについては、今年1月策定の「広島城展示等基本計画」に記載しており、これを踏まえて進める必要があると考えている。例えば、三の丸エリアは、近世の広島歴史・文化の発信の中心的な役割を担う空間、二の丸エリアは、復元建物があ、城の役割・機能を体感的に学び、伝統文化に触れることができる空間、本丸エリアは、近世・近代の遺構が存在しており、広島城の現在に至るまでの歴史を体感的に学ぶことができる空間と整理しており、これらを軸に今後学芸事業者が具体的なものにしていくことになる。

- ・現在の広島城は、公益財団法人広島市文化財団が指定管理者として管理しており、学芸員がいる。令和7年度から新しい管理体制に変わり、民間事業者が指定管理業務として、歴史館を含む広島城一帯の管理を行うが、学芸事業者は別途選定し、両者が連携して進めていくことにしているものである。

(今川委員)

- ・以前広島市の有識者会議で、広島城を含む中央公園の活用についての議論に参加していた。その際に広島城の位置付けを色々検討したが、年間の観光客はコロナ以前で30万人と周辺施設を見ても非常に少ない。広島城の来場者は、子供、外国人観光客が多く、縮景園とのセットでの観光が多かった。リピーターを考えるなら、城内整備だけではなく、周辺と連携した観光の在り方等の検討をしなければいけないと考える。

- ・歴史館とペDESTリアンデッキはともに2階建てで、ペDESTリアンデッキからの良好な撮影ポイントを阻害するのではないか。景観への配慮、収蔵容量の面からも建物のボリュームについてどのくらい検討が進んでいるのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・ペDESTリアンデッキは、歴史館よりも西側にできる予定となっており、視界に入る部分もあると思うが、景観に配慮した建物にしたいと考えている。また、現在広島城で管理している展示・収蔵品は全て歴史館に収まると想定している。

(今川委員)

- ・観光客について、ターゲットを置いて整備するのかということに関しては次回以降ということでもよろしいか。

(三浦座長)

- ・しっかり議論をする必要があるので、次回以降お願いしたい。

(戸田委員)

- ・資料3として広島城の魅力向上を取り上げているが、これは本会議の根幹に位置すると理解する。質問にもあったが、魅力の向上はベースで、いかに情報発信し、人を呼ぶかが大事だと考える。今後の会議では情報発信、アクセス面、回遊性等の議論をお願いしたい。

(浅野調査官)

- ・三の丸については保存管理計画の時から追加指定の検討がされていて、それは引き続きお願いしたいと考えるが、(仮に追加指定が難しく)整備することになったとしても三の丸が元々どういった場所であったかを反映した上での整備をお願いしたい。
- ・また、歴史館に関連し、天守の木造復元の検討があるが、建替え自体は素晴らしいことだが、天守台、地下の遺跡・遺構には十分配慮していただかないと許可は難しい。復元前提で話が進んでいるようだが、慎重に考えていただきたい。

(三浦座長)

- ・当然慎重に考えるべきことだ。詳細については次回以降議論を重ねたい。

(4) 保存活用計画の構成について

—事務局から資料4により説明—

(戸田委員)

- ・保存管理計画の評価に係ること、上位計画、関連計画、本計画との関係で、総合計画に直結する都市計画マスタープランとこれを上位計画とする広島都心活性化プランがある。これが本委員会でもベースになると思うが、内容的には広島城の扱いが非常に弱い印象である。城へのアプローチも非常に弱く、八丁堀と紙屋町と広島駅の軸づくりを主とし、計画範囲に城は入っているが、言及は少ない。これらとの関係をどうするか論点になる。上位計画とするなら非常にやりにくくなると思うが、その点も踏まえて資料の用意をお願いしたい。

(事務局)

- ・市の他計画との関連もあるが、本計画においては観光面を含めた活用についてもしっかりと書き込む予定である。今後改定が行われていく際に、本計画の内容を踏まえて充実させていくよう働き掛けが必要だと考える。

(今川委員)

- ・中央公園のアクセスに関する検討は共有図のようになっており、これが上位計画になるのではないかと懸念されている。地下道からのアプローチの弱さは他の会議でも指摘されている。過去には外国人観光客向けに歴史の道が計画されたが、それは縮景園と広島城を結ぶもので、これの復活に関する意見が出ていたと記憶している。広島城の中の回遊については、素人ばかりで検討されなかったため、今回の会議で十分練っていく必要がある。

(戸田委員)

- ・現在、市の方向性としては賑わい創出が中心かと思う。紙屋町、八丁堀、相生通り、東西で広島駅と一体化するか、広島城区域がエアースポットになっていて、いかに動線を作るかという提案があったかわからないが、実現するような事業は行われていないと感じる。

(中越委員)

- ・天守閣は木造で復元ということを考えると、江戸時代のお城のイメージかと思うが、当時の城は現在のような緑地ではないが、今は都市の中でも貴重な緑地である。そこでお城の天守閣、あるいは景観上必要などところに関しては古い時代の復元もあるかもしれないが、現実には地球温暖化防止も含めて、緑を残してもらうことを考慮いただきたい。

(三浦座長)

- ・本会議は天守閣の木造復元のみを目的としておらず、広島城全体の遺跡としての今後の在り方について一番よい方向を決めるため計画するものである。天守再建の意義、他計画、自然環境等いろいろあるが、それらを含めて総合的に広島城がどのようなべきかを決める報告書となる。したがって樹木に関しても重要な課題として盛り込まれる。

(三宅委員)

- ・見通しとして、史跡の本質的価値があるが、これは全体を左右する部分になると思うが、どのような方向で考えているか伺いたい。

(三浦座長)

- ・本質的価値は、史跡指定時の意義に基づくもので、広島城では石垣、堀、本丸、二の丸になる。本丸における段差も本質的価値と言える。また礎石も残っているため、本質的価値となる。地下遺構も本質的価値と言える。本質的価値だけでは史跡の保存はできないので、廃城後から現在に至るまでの歴史の中で、本質的価値に準じ保存すべきものとして、例えば大本営跡とか地下通信施設などが挙げられる。これも広島城

跡として保存すべきものとして、列記される。したがって何を入れるか、どう管理するかが本計画での中心的課題になる。

- ・この構成案は他の史跡とほぼ同様で、大体の内容を網羅する必要から同じ（構成）となるが、内容については史跡独自のものとして個性があり、その辺の意見をいただきたい。
- ・報告書の作り方としては、目次に沿って内容案を(事務局が)出し、委員の意見に基づいて修正、加筆、削除を行って完璧なものにする。事務局の案だけでは偏りが出てしまうため、委員の方々の意見が重要になる。広島城跡は、日本の近世城郭の代表中の代表という非常に大事なものであり、したがって(史跡広島城跡の)保存というのは非常に重要なものとなる。皆様方の今後の意見が非常に重要であり、忌憚のない意見を述べていただきたい。
- ・今日の議題はこれで全てとなる。

(事務局)

- ・今後の保存活用計画の策定、それから天守の木造復元の検討にあたって、皆様からの忌憚のない意見が非常に重要なものになってくる。
- ・次回の会議は、3月30日午後から開催を予定している。新型コロナの感染状況により、リモートか対面での実施が可能か考える。いずれ広島城の現況を見ていただく機会も作りたい。

(三浦座長)

- ・これで史跡広島城跡保存活用会議第1回会議を終了する。

以上